

学生の教訓を主体とした熊本地震の アーカイブ構成に関する研究

熊本大学工学部社会環境工学科 学生会員 金子雄大
熊本大学大学院先端科学研究部 正会員 竹内裕希子

1. 研究背景

災害が発生すると、その全貌を捉え、残す取り組みが行われる。「アーカイブ」はそのうちの1つであり、近年の情報技術の向上によりデジタルコンテンツを用いて膨大なデータを保管する「デジタルアーカイブ」の構築が2011年3月に発生した東日本大震災以降取り組まれている。災害の記憶や教訓を共有し、記録から得られる教訓を今後の災害に活かすために、後世へ伝え残すことである。

2016年4月に発生した熊本地震では、熊本県が熊本地震発生時の対応時における課題の一つとして、「個人での備えが不十分である」ことを挙げており、熊本で過去に起きた地震についての伝承が十分でなく、地震に対する認識や備えが不足していたとしている。この教訓が、発生からおよそ一年後の2017年4月19日に、熊本県主体の熊本地震デジタルアーカイブを公開している。また現在、熊本大学においても、熊本地震に関するデジタルアーカイブが構築段階にある。

2. デジタルアーカイブの課題

(1) 震災デジタルアーカイブにおける課題

既存の震災デジタルアーカイブにおける課題として、情報量が多いため印象に残りにくい、伝わりにくい、アーカイブコンテンツの現実世界での活用ということが挙げられる。これらの課題を解決するためにストーリーを構築することの重要性について波多野¹⁾が述べている。

また、震災デジタルアーカイブにおけるもう一つの課題として、「デジタルアーカイブコンテンツの現実世界での活用」がある。事例として2次元のデジタルコンテンツを現実空間で活用している宮城県東松島市図書館の取り組みがある。東松島市図書館では、「ICT地域の絆保存プロジェクト」という名目で、震災アーカイブを構築しており、その中で「まちなか震災アーカイブ」という取り組みを行っている²⁾。これはQRコードを記載した伝承看板を市内の特定の場所に設置し、スマートフォンなど

で読み取ることで、東松島市図書館が運営している震災アーカイブにアクセスできる仕組みになっている(図-1)。表示されるデジタルアーカイブコンテンツは、伝承看板が設置されている周辺の震災当時の写真であり、現在の様子と比較することができる。

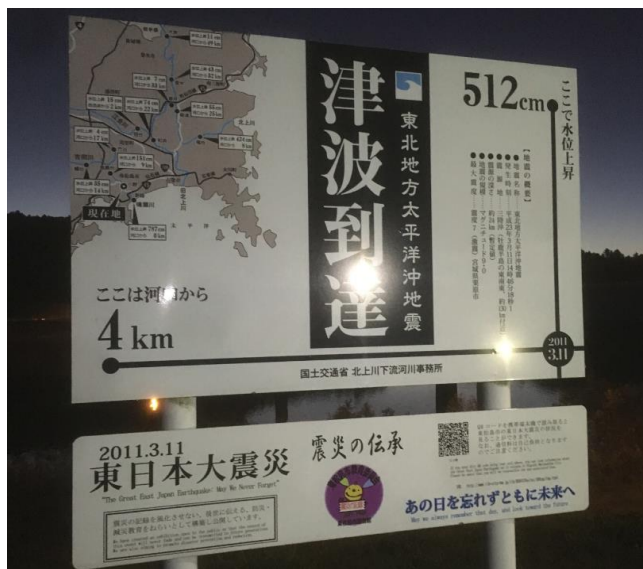


図-1 「まちなか震災アーカイブ」の伝承看板

(2) 熊本大学アーカイブにおける課題

熊本大学が2018年の3月に公開した「平成28年熊本地震記録集」において、部局長等の声は設けられているが、学生の声は含まれておらず、熊本県が運営している熊本地震デジタルアーカイブ、他のデジタルアーカイブにおいても、大学生を主体としたものが存在していない。このような背景から、熊本大学としてのデジタルアーカイブには大学生の教訓を掲載することが重要である。熊本大学においても熊本地震の影響は大きく、被害を受けた建物が熊本地震の被害の爪跡を視覚的に物語っていた。しかし、復旧工事の進行や地震発生からの時間の経過によってそれらの痕跡が消失し、熊本地震を思い出す機会が少なくなっている。それに加え、熊本地震を経験した熊本大学の学生が年々減少しており、学生の教訓を後世に伝える機会は軽減している。以上の背景から、本研究では熊本大学の学生を主体としたデジタルア

ーカイズを構築するにあたり、教訓を伝承するストーリーの抽出とデジタルコンテンツと現実世界をつなぐ手法について検討することを目的とする。

3. 研究手法

熊本大学の学生を対象としたアンケート調査を実施した。

アンケート調査の対象は熊本地震を経験した現役の熊本大学の学生で、全学部の新3年生（平成28年度入学以前）以上6318人を対象として、全39問をウェブアンケートで行った。アンケートの実施期間は平成30年12月から平成31年1月である。調査の質問項目は大きく分けて属性（6項目）、熊本地震に関して思うこと（8項目）、備え（9項目）、避難行動（11項目）、地震の際に困ったこと（3項目）、ボランティア（2項目）で構成した。

アンケート調査結果から、熊本大学の学生の教訓を抽出し、それを元にストーリーを作成する。また、アンケート調査結果や作成したストーリーから、熊本大学内でのエリアや地点がデジタルアーカイブと連動した伝承看板を設置するに相応しいか提案する（図-2）。

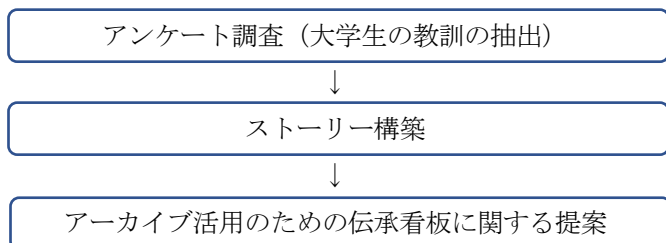


図-2 研究の流れ

6. 調査結果

2019年1月7日時点で106件（男性54件、女性52件）の回答を得た。熊本地震について感じたことについて、およそ4割の回答者が恐怖や驚きを回答しており、熊本地震の教訓に関しては、半数近くが備えの必要性を教訓として回答している。

7. おわりに

今後アンケート結果から大学生の教訓を分析し、ストーリーを構築する予定である。

参考文献

- 1) 波多野貴哉（2018）：学生の教訓を主体とした熊本地震のアーカイブ構成に関する研究，熊本大学社会環境工学科卒業論文
- 2) 東松島市図書館 ICT 地域の絆保存プロジェクト
<http://www.lib-city-hm.jp/lib/2012ICT/shinsai2012.html>